

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査 本校の結果について

4月18日に6学年児童を対象に実施しました「令和6年度 全国学力・学習状況調査」について、文部科学省及び北海道教育委員会、旭川市教育委員会の報告書が公表されました。これらの報告書をもとに本校の結果を検証し、その概要と指導の改善策をまとめましたのでご報告いたします。

今回の結果分析で、本校では国語については、全国平均を上回る学力の定着が認められました。算数においては、全校平均より2ポイントでした。各教科の特に正答率が高かったところを「成果」、他の領域や分野に比べて正答率が低かったところを「課題」としています。

今後は、この調査の結果分析をもとに、家庭・地域の連携をいただきながら、学力向上に向けた指導改善を一層推進してまいりますので、変わらぬご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

1 国語科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	○国語の全体の平均正答率(本校 70%)は、全道(67%)・全国(67.7%)を上回っていました。 ○話すこと・聞くことにおいて、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の手集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討して考えることができています。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項において、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができています。
課題	▲情報の扱い方に関する事項において、図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することに課題が見られました。 ▲書くことにおいて、事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方に課題が見られました。また、自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られました。 ▲読むことにおいて、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしながら記述することに課題が見られました。
指導・改善	【情報の扱い方に関する事項】 ・様々な図示の方法に触れることを通して、児童がそれぞれの方法で考えを明確にしたり思考をまとめたりすることができるよさに気づき、使うことができるように指導します。 【書くこと】 ・文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしたり、事実が考えを裏付けるものとなっているかどうかを確認したりすることで、相手にとってよく理解できる文章になることを実感できるように指導します。 【読むこと】 ・【知識および技能】の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と関連させて、児童自身が「人物像」や「物語の全体像」、「表現の効果」など、どの観点で読んだのかを明確にしていけることで、自分の考えを適切に表現することができるように指導します。

2 算数科に関する結果分析及び指導の改善策

成果	○【変化と関係】の領域において、2つの数量関係について着目し、速さが一定である場合について、道のりと時間の関係について考察することで、その関係を言葉や数を用いて説明することができています。 ○【図形】の領域において、直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解し、円周率を用いて直径の長さから円周の長さを計算によって求めるだけでなく、円周率が円周の長さの直径の長さに対する割合であることを理解できています。
課題	▲全ての平均正答率で、全道・全国を下回る。全体(本校 59%、全道 61%、全国 63.4%) ▲【数と計算】【データの活用】の知識が未定着な子が多くいました。 ▲【数と計算】の領域において、問題場面を数量関係を捉え、式に表すことが苦手な傾向にあります。 ▲【数と計算】の領域において、除法の筆算について、他の学習内容と関連付けて、計算の仕方について捉え直すことに課題が見られました。(特に、除数が小数である場合の計算が苦手傾向あり) ▲【図形】の領域において、直方体の見取り図について理解し、書くことに課題が見られました。また、角柱の底面や側面に着目し、五角形の面の数とその理由を言葉と数を用いて説明することにも課題がありました。 ▲【データの活用】の領域において、簡単な2次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類・整理したり、折れ線グラフから条件に当てはまることを言葉や数を用いたりして記述することに課題が見られました。

指導・改善	【数と計算】 ・数量の関係をつかみにくい問題の解決において、「多い」のだから加法、「少ない」のだから減法のように形式的に立式するのではなく、問題場面を図に表し、数量の関係を捉え、式に表すことができるように言葉を用いて説明できるように指導します。 【図形】 ・観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について筋道を立てて考察することで、実感を伴いながら図形についての理解を深める考えることができるように指導します。 【データの活用】 ・設定した問題を解決するために、どのようなデータが必要かを考え、目的に応じて表やグラフに表し、データの特徴や傾向をつかみ、判断や考察することができるように指導します。
-------	--

3 児童質問に関する結果分析及び指導の改善策

傾向（○）と課題（▲）・改善策（→）	【傾 向】 ○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況で、全国平均を上回っている項目がありました。 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができていると思う」 肯定的回答 本校89.5%（全道79.5%・全国80.8%） 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいると思う」 肯定的回答 本校94.8%（全道91.2%・全国91.6%） 【今年度の顕著であった課題】 ▲自己有用感に関わる項目 「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問について「どちらかといえば当てはまらない」の割合が全国より多く、過年度より低くなっています。 →全教育活動を通して、集団における個々の役割の自覚や責任意識の育成を図り、自他を尊重する心を涵養する指導をより充実し、児童のよさの気づきへのサポート、努力を評価、他者から承認される機会を十分に設けるなど、自己・他者との関わり方を考えるようにします。 ▲基本的な生活習慣（PC・タブレットの利用に関わる項目） 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、ICT 機器を勉強のため利用していますか」「1日当たりどれくらいの時間、SNS や動画視聴、ゲームなどに利用していますか」の利用状況がよくない傾向にあります。 →学習内容をよりよく理解したり、学びをより豊かにしたりするために、タブレット端末を上手に活用できるよう指導しているところです。学習に関わること以外での使用や適切に使用することも含めて「情報モラル」の指導を充実し、小学生の段階も、少しずつそのような環境の中に入っていく時期であることを押さえて指導上の配慮をしていきます。 ▲地域や社会に関わる活動の状況等における項目 「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）」の設問について、家族と過ごす回答した児童50.0%（全国65.6%）と低く、テレビ、動画、SNSなどで時間を過ごしている割合が高い傾向にある。 →望ましい学習・生活習慣づくりを学校と家庭が共通理解しながら、学校や家庭の様子を情報共有し、子どもの望ましい基本的生活習慣の確立につながるよう家庭の協力を得ながら進めていきます。 【昨年度からの継続した課題】 ▲「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」という2つの設問について、過年度と比べると「あまりしていない」「全くしていない」という回答の割合が多くなりました。 →「早寝・早起き・朝ごはん」等の規則正しい生活は学習の基盤ともなることの啓蒙に加えて、生活リズムチェックシートの取組も合わせ、ご家庭と協力しながら推進し、子どもたちの健全育成に努めていきます。 ▲「先生はわかるまで教えてくれている」「困りごとや不安をいつでも相談できる」の設問について「どちらかといえば当てはまらない」の割合が全国の割合より多く、過年度より増えています。 →学級風土をさらに醸成したり、他にも相談できる場があることを伝えたりする等して、心理的な「安心・安全」を確保しつつ、児童が「わかる授業」「できる授業」を目指して、日々の授業改善に継続して取り組んでいきます。
--------------------	--

【全国の結果】 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

または、検索サイトで「国研 全国学力」と検索

【北海道の結果】 北海道教育委員会 <https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/>

または、検索サイトで「道教委」と検索、サイト内検索で「令和6年 全国学力」と検索

【旭川市の結果】 旭川市のHP（<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>）から、サイト内検索で「全国学力・学習状況調査」と検索してください。）